

(別記)

南富良野町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、北海道のほぼ中央に位置し、全耕作面積に占める水田の割合は7%である。

特定中山間保全整備事業や道営中山間総合整備事業により基盤整備が進んでおり、土地利用型農業の生産性向上等を一層進めていく必要がある。

一方、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに麦、大豆については、雑草、連作障害等による単収低下、年次による変動が顕著となっている。

近年では、農業経営の規模拡大が進んでいる状況の中で、今後さらに一戸当たりの農地面積が増加していく状況にある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

「生産の目安」に沿った作付けを行うとともに、もち米の生産団地としての地位を維持するため、品質の向上や生産コストの低減を行うことにより、品質の安定したもち米を安定供給できるよう取り組む。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

現段階としては取り組みの予定無し。

イ 米粉用米

現段階としては取り組みの予定無し。

ウ 新市場開拓用米

現段階としては取り組みの予定無し。

エ WCS用稲

現段階としては取り組みの予定無し。

オ 加工用米

現段階としては取り組みの予定無し。

カ 備蓄米

現段階としては取り組みの予定無し。

(3) 麦、大豆、飼料作物

高齢化が進行する中、耕作放棄地の増加を防止するため、担い手への農地集積を進めるとともに、輪作体系の確立を目指し、生産性向上や低コスト化の取組を推進する。

飼料作物については、地域内の酪農及び畜産農家における飼料確保の観点から、生産量の確保が必要となっており、生産性、品質向上の取組を推進する。

(4) 高収益作物（野菜等）

地域振興作物として位置づけ、産地交付金を活用し、作付面積の拡大を図る。

(5) 畑地化の推進

主食用米の需要の減少傾向が続くことが想定される中、農地の排水性の改善や集積等に計画的に取り組むためにも、地域における効率的な土地利用にも配慮しつつ、畑作物の本作化を推進する。

(7) てん菜、ばれいしょ

当地域の輪作体系において重要な品目であるが、近年作付面積が減少傾向にあり、輪作体系の維持が困難になってきていることから、産地交付金を活用して収量・品質の安定向上及び低コスト化を図ることにより、作付面積を拡大し、畑作物の輪作体系の確立を図る。

(8) 耕畜連携

酪農家の自給飼料確保と耕種農家の生産性向上に向け資源循環の取組を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	96.0	96.1	96.1
飼料用米	0.0	0.0	0.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS 用稲	0.0	0.0	0.0
加工用米	0.0	0.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	31.4	26.8	26.8
大豆	3.5	11.6	12.0
飼料作物	79.8	76.0	76.0
そば	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物			
野菜			
・ 南瓜	1.7	3.5	3.8
・ 玉葱	4.5	4.6	4.9
・ スイートコーン	5.7	5.8	6.0
・ 馬鈴しょ	2.4	4.1	4.8
・ てん菜	1.1	0.7	1.2
・ 地力増進作物	8.5	7.5	-
・ その他野菜	4.6	4.8	5.2

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				現状値	目標値
1	小麦	生産性、品質向上助成	作付面積 単収の増	(29年度) 31.4 ha (29年度) 346 kg	(32年度) 26.8 ha (32年度) 460 kg
2	大豆	生産性、品質向上助成	作付面積 単収の増	(29年度) 3.5 ha (29年度) 120 kg	(32年度) 12.0 ha (32年度) 275 kg
3	てん菜	生産性、品質向上助成	作付面積 糖度の向上	(29年度) 1.1 ha (29年度) 16.0 度	(32年度) 1.2 ha (32年度) 17.1 度
4	馬鈴しょ（でん粉原料用を除く）	高収益作物助成	作付面積	(29年度) 2.4 ha	(32年度) 4.8 ha
5	スイートコーン	高収益作物助成	作付面積	(29年度) 5.7 ha	(32年度) 6.0 ha
6	施設野菜（メロン・スイカ・トマト・ミニトマト・長ねぎ）	高収益作物助成	作付面積	(29年度) 3.5 ha	(32年度) 3.8 ha
7	南瓜・玉葱	高収益作物助成	作付面積	(29年度) 6.2 ha	(32年度) 8.7 ha
8	その他野菜（グリーンアスパラ・ブロッコリー・行者ニンニク・トマト（露地））	高収益作物助成	作付面積	(29年度) 1.1 ha	(32年度) 1.4 ha
9	地力増進作物	地力増進作物助成	作付面積	(29年度) 8.5ha	(30年度) 7.5ha
10	飼料作物	生産性・品質向上助成	作付面積 牧草単収の増 デントコーン単収の増	(29年度) 79.8 ha (29年度) 2,900 kg (29年度) 4,860 kg	(32年度) 76.0 ha (32年度) 3,200 kg (32年度) 5,150 kg
11	飼料作物	資源循環助成（耕畜連携）	作付面積 牧草単収の増	(29年度) 27.8 ha (29年度) 2,900 kg	(32年度) 24.4 ha (32年度) 3,200 kg
12	—	畑地化の取組	取組面積 （新規のみ）	(29年度) 0 ha	(30年度) 0.45 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり